

チャレンジランキングゾーン

○みんなでドッジボールラリー(1年生～6年生・特別支援学校及び特別支援学級)

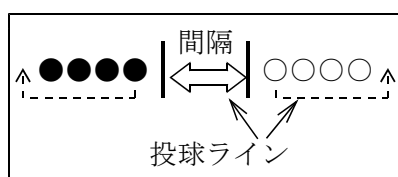
(1)ゲームの概要



1 グループが一定の間隔をとって並び、列の先頭の2人で1つのボールを使ってキャッチボールを行い、投げるたびに先頭の人には列の後ろに並び直ししながら、3分間に何回捕球できたかを競うゲーム。

(2)場づくりと用具

①コート



・ラインの間隔は、学年に応じて以下のように定める。
1年生は4m間隔、2年生は5m間隔
3年生は6m間隔、4年生は7m間隔
5年生は8m間隔、6年生は9m間隔
特別支援学校及び特別支援学級は4m以上の間隔とする。

②用具

- ・ドッジボールを各グループに1個
(低学年は1号球 中学年は2号球 高学年2又は3号球)
(ライトドッジの場合は、低学年1号球、中学年、高学年は2号球)
- ・ストップウォッチを各グループに1個

(3)グループ編成

- ①原則として、1グループ4人以上10人以内で編成するが、1学級の人数が40人を超える場合は、1グループ10人を超えてもよいものとする。
- ②学級の人数に応じて複数グループ(4グループまで)を編成し実施する。

(4)ゲームの進行

- ①ゲームへの挑戦時間は3分間とする。
- ②3分間に捕球できた回数を得点とする。
- ③投球したボールが地面でバウンドして捕球した場合も回数に入れてよい。
- ④1つのグループが2つに分かれ、投球ラインを挟んで向かい合い、縦一列に並ぶ。(左上図参照)
- ⑤先頭のいずれかがボールをもって準備し、計時係の「はじめ」の合図で相手の先頭にボールを投げ始め、計時係の「おわり」の合図で終了する。
- ⑥ボールを投げた児童は、自分の列の最後尾に並び直し、繰り返しゲームに参加する。
- ⑦途中でラリーが止まった場合でも、時間内であればゲームを続けることができる。その場合、続けてカウントする。

(5)記録及び登録

- ①グループで捕球できた回数をグループの記録とする。
- ②複数グループで実施した場合は、参加したグループの平均回数を学級の記録とし、登録する。ただし、学級のグループが1グループであった場合は、そのまま1グループの回数を学級の記録とし、登録する。
- ③学級の平均値を算出する際は、1/100位まで計算し、1/100の位を四捨五入して、1/10の位までとする。

(6)実施上の留意点

- ①捕球に際しては、片足あるいは両足が投球ラインを踏んでもよいものとする。しかし、踏み越えてはならない。
- ②投球に際しても、片足が投球ラインを踏んでもよいものとする。しかし、踏み越えてはならない。
- ③捕球の姿勢は、両手、片手等は問わない。ただし、捕球しようとした児童がはじいたボールを、他の児童が触れた後、捕球した場合は、回数として認めない。
- ④計時を行う児童は、適宜交代し、学級全員が参加できるように工夫して実施する。
- ⑤記録挑戦(公認)の際は、教師立ち会いのもとで実施する。
- ⑥実施前には十分に準備運動を行う。